

## 第3学年 社会科学学習指導案

### 1 小単元名「農家で作られるもの～福岡市でバラづくりにはげむ〇〇さん～」

### 2 小単元の考え方

#### 何のために

本学年の児童は、前単元「わたしたちの暮らしと商店」の学習で、スーパーマーケットの工夫をたくさん見つけるために見学やインタビューをし、意欲的に調べる姿が見られるようになってきた。

資料や見学から捉えた事実をプリントに抜き出したり、短い言葉にまとめたりし、その短い言葉を付箋に書き、学級全体または個人で提示物（ラベル図）をつくってきた。そして、自分の提示物（ラベル図）と友達の提示物（ラベル図）を比べ、同じところや違うところに気付き、発表することができるようになってきている。しかし、視点と事実のつながりや学習問題と事実のつながりをとらえることは、十分とは言えない。

『わたしたちの暮らしと商店』では、消費者の立場に立った販売の工夫を学習してきた。そこで、これまでの学習を生かしながら、地域の生産の仕事に携わっている人々の工夫や、自分たちの生活とのかかわりについて事実認識を深めさせていきたい。



#### 何を

福岡県では、野菜・米・果実等さまざまな農産物が作られている。花卉の占める割合は、10%あり、特に、バラは全国第3位の出荷量を誇っている。県内においては、福岡市が出荷量の約27%を占めており、県内第1位である。福岡市内のバラ農家は、海沿いで平地が広がる西区の元岡や北崎に集中している。

西区元岡でバラ農家を営む〇〇さんは、バラを生産する前は、トマトやキュウリ、米等を生産していた。自然的な条件や地形的な条件を利用して、一年中収穫できることやお客さんの顔を見ながら直接販売できること等から、18年程前からバラ作りを行っている。バラ農園を発展させていきたいという願いをもって、家族や同じ地域のバラ農家の人々と協力しながら、季節毎のイベント等も行っている。さらに、出荷するだけでなく、農園のそばで直売店を開いて、安価で直接販売を行いより広く、より多くの人に満足してもらおう工夫もしている。

これらのことから、児童が直接農家や直売店を見学して、生産や販売の工夫や努力を調べることを通して「一人一人のお客さんが満足するバラを届けたい」という浜地さんの願いにも気付き、農家の人たちの仕事の工夫と自分たちの生活とのかかわりを具体的に考えることができると考える。



#### どのように

バラの出荷量のグラフをもとに、福岡県が全国第3位であるということや、その中で一番多くバラを出荷しているのが福岡市であるという事象から、自分たちの住んでいる福岡市でバラづくりがさかんな理由について問題意識をもたせ「福岡市のバラ農家の人たちは、どうしてバラをたくさんつくることができるのだろう。」という学習問題をつくる。

次に、資料（バラづくりごよみ）や写真をもとに、自分なりの予想を出し合い、全体で学習問題の答えの予想を立てていく。その予想から、調べる計画を立て、学習問題の答えを追究する視点をつくっていく。バラ農家の見学や資料から見つけた事実をラベルに書き出し、視点ごとに整理しながらラベル図にまとめていくことで、児童の考えは明確化されていくと考える。さらに、自分でつくったラベル図を使って少人数で、次に全体で説明の活動を通して、児童は自分が見つけた事実の根拠を友達に分かるように説明していく。このようなラベルが、事実合っているかの見直し、すなわち事実の見直しを行うことで、児童一人一人の事実認識を確かにしていくことができると考える。

最後に、このラベル図をつかって、視点ごとにラベルとタイトルをつなげて学習問題の答えを見つけていく。このように、事実を整理したラベル図をつかって説明することで、児童一人一人に事実認識を深めることができると考える。

## こんな提示物で



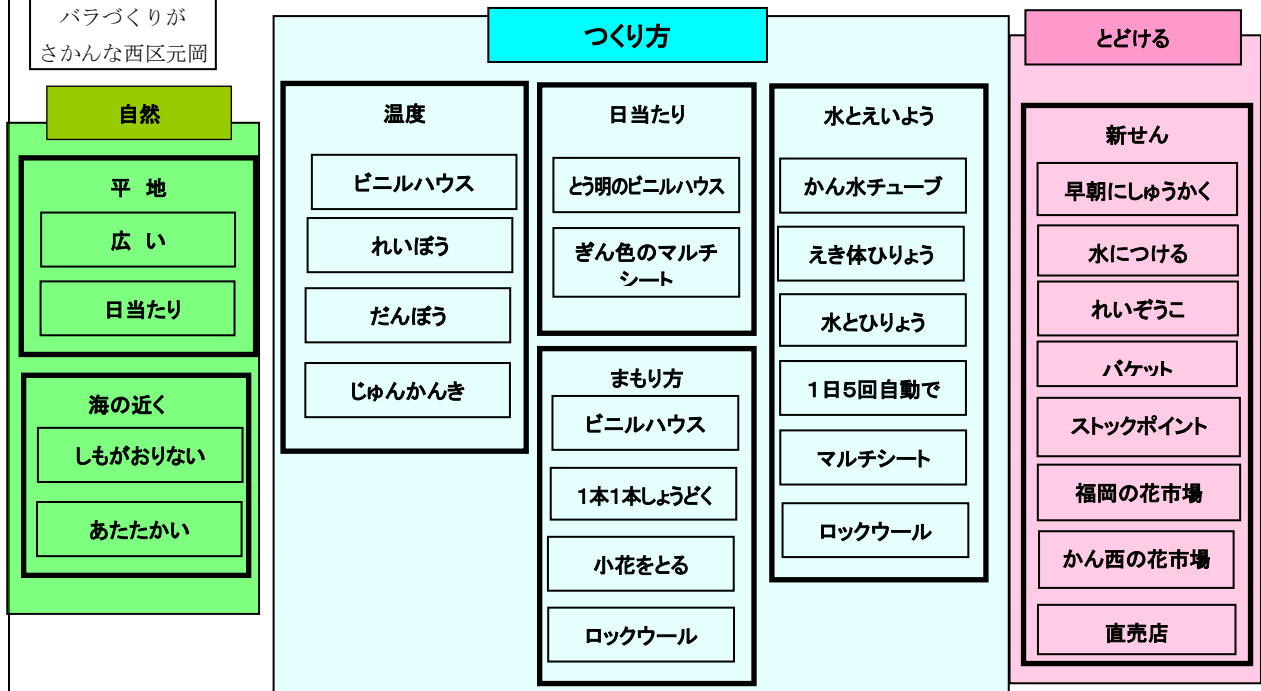
バラづくりが  
さかんな西区元岡

### 学習問題

元岡ののう家の人たちは、どうしてバラをたくさんつくりことができるのだろう。



バラづくりに  
はげむ〇〇さん



一人一人によるこんでもらいたい

### 学習問題の答え

元岡ののう家の人たちが、バラをたくさんつくりことができるわけは三つあります。  
一つ目は、広い平地と海の近くという自然を生かしていることです。  
二つ目は、温度、日当たり、水と栄養、まもり方などの作り方を工夫して育てていることです。  
三つ目は、新鮮なとどけ方を工夫していることです。  
このように、元岡ののう家の人たちは「お客さんに喜んでもらいたい」という願いをもってバラをたくさんつくっています。

### ○ 提示物の意図

「自然」「つくり方」「とどけ方」の視点は、「どうしてバラをたくさんつくりことができるのだろう」という学習問題の予想から、①バラづくりに適した「自然」があること ②たくさんつくりのためにバラ農家の方が「つくり方」の工夫や努力を行っていること ③バラを買いたいというたくさんの人に「とどけ方」を工夫していることによるものである。その予想を確かめるために、バラ農家の見学や資料を通して調べ学習を行い、予想の根拠となる事実を書き出す。ラベル図を作成する際に、見学や資料から根拠を出し合いながら、少人数で中間交流を行うことで、児童一人一人が事実を確実にできるようにする。

また、〇〇さんの「つくり方」の工夫や努力の視点は、事実が多いので、「温度」「日当たり」「水とえいよう」「まもり方」の4つのタイトルに整理していくことで視覚的にも分かりやすくなる。その後、全体でラベル図について話し合う中で、「つくり方」「とどけ方」に、バラ農家の〇〇さんの「気持ち」が込められていることを付け加える。「お客さんに喜んでもらえるバラをつくり届けたい」という〇〇さんの願いがあるからこそ、たくさんバラをつくりたいという考えさせ、共通のラベル図を作成させる。このように、ラベル図を作ったり説明したりしていくことで、一人一人が事実認識を深めることができる。

## こんな目標と指導計画で

### 3 小単元の目標と指導計画 (全14時間)

		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学ぶ意欲・態度               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡市でつくられる農産物に関心をもち、バラ農家の人たち(〇〇さん)のバラづくりの工夫を意欲的に調べることができる。</li> </ul> </li> <li>○ 問題を解決する力               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バラの出荷量グラフ等の資料をもとに疑問意識をもち、学習問題をつくることができる。 (課題を発見する力)</li> <li>・ バラ農家の人たち(〇〇さん)のバラづくりの工夫や努力について、見学や資料をもとに調べることができる。 (人・もの・ことにかかわる力, 調べる力)</li> <li>・ バラづくりに適した自然条件, 〇〇さんのバラづくりの工夫や努力について考えたり, 自分たちの生活とのかかわりについて考えたりすることができる。 (考える力)</li> <li>・ 調べたことを提示物に表し, 事実をもとに説明したり, 自分で考えた学習問題の答えを説明したりすることができる。 (表現する力)</li> </ul> </li> <li>○ 生きて働く知識               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福岡市のバラ農家の人たちは, 自然条件を生かして, お客さんに喜んでもらえるようにバラづくりや販売のための工夫や努力をしていることを理解することができる。 (見方・考え方)</li> </ul> </li> </ul>	
段階	配時	学習活動と内容	指導・支援
つ か む	2  ①	1 福岡市の農作物マップや生産量のグラフをもとに, 学習問題をつくる。 (1) バラの出荷量グラフを見て, 驚いたことや気付いたこと, 疑問に思うことをもとに学習問題をつくる。 学習問題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">             元岡のう家の人たちは, どうしてバラをたくさんつくることができるのだろう。           </div> ① (2) 元岡の地図やバラづくりの写真をもとに学習問題の答えを予想し, 調べる計画を立てる。 予想 「自然」 ・ビニルハウスをたくさん立てられる土地が広がっているからではないかな。 「つくり方」 ・たくさん作れるひみつが, あるからではないかな。 「とどけ方」 ・たくさんのお客さんに届ける方法があるからではないのかな。	○ 福岡県内でも福岡市にはバラ農家があり, バラづくりがさかんであることに気付かせるために, 福岡県のバラ出荷量(本)の都道府県順位(福岡県3位)が分かるグラフ, さらに市町村順位(福岡市1位)が分かるグラフを提示する。  ○ 学習問題の答えの予想をもとに, 調べる視点を立てるために, バラづくりがさかんな地域の土地の様子地図や写真を提示する。
さ ぐ る	10  ①	2 学習問題の答えについて, バラ農家の見学や資料を通して調べる。 (1) 資料(バラづくりごよみ)からバラのつくり方の工夫を調べ, 見学で知りたいことを整理する。 ○ 見学で知りたいこと ・平地だからビニルハウスがたてやすいのかな? ・ロックウールって何だろう? ・どうして朝早くしゅうかくするのか?	○ 視点に合った事実を見つけさせるために, よく分からないことや詳しく知りたいことを見学ノートに整理させておく。
	②	(2) 〇〇さんのバラ農家を見学し, 知りたいことや疑問について質問する。 ○ 〇〇の〇〇さんのバラ園 ○ バラづくりの工夫や努力	○ 事実をしっかり捉えさせるために, 見学ノートをもとに3つの視点から質問させる。



ま  
と  
め  
る

2  
①  
本  
時  
B

5 ラベル図をもとに、学習問題の答えについて話し合う。

(1) ラベル図をもとに、学習問題の答えを説明し合う。

説明の活動③

学習問題の答え

元岡ののう家の人たちが、バラをたくさん  
つくることができるわけは三つあります。  
一つ目は、**広い平地**と**海の近く**という**自然**  
を生かしていることです。二つ目は、**温度**、  
**日当たり**、**水と栄養**、**まもり方**等の**つくり方**を  
工夫して育てていることです。三つ目は、  
**新せん**な**とどけ方**を工夫していることです。  
このように、のう家の人たちは『**お客さん一  
人一人に喜んでもらいたい**』という願いをもっ  
てバラをたくさんつくっています。

(2) 学習を振り返り、〇〇さんへお礼の手紙を書く。

予想される子どもの手紙（単元の振り返り）

〇〇さん、お元気ですか。見学、ありがとうございました。  
わたしは、見学に行って、〇〇さんと〇〇ののう家の人たちがバラをたくさんつくる  
ことができるわけが三つ分かりました。  
一つ目は、**自然**を生かしていることです。〇〇の**広い平地**には、**ビニルハウス**がた  
くさんありました。  
二つ目は、**つくり方**の工夫です。**ビニルハウス**を使うと一年中バラをつくること  
ができますね。**温度**も調節できるし虫や台風からも**守って**もらえます。他にも、**かん水  
チューブ**を使って、**水とひ料**をいっしょに**自動**でやるなどたくさんの工夫をしていま  
した。  
三つ目は、**とどけ方**の工夫です。〇〇さんはいつもお客さんのことを考えて**新せん**  
なバラをとどけていると聞いて、すごいなと思いました。**福岡の花市場**だけでなく、  
**かん西の花市場**にまで、とどけていると聞いて、びっくりしました。  
〇〇さんが、『**一人一人のお客さんに喜んでもらいたい**』という気持ちで、友だちと  
協力してつくっているから、バラがたくさんくれるんだなと思いました。  
バラの学習をして、今まで知らなかったことがたくさんわかって、とっても楽しかっ  
たです。ほんとうにありがとうございました。〇〇さんこれからも、お客さんに喜んで  
もらえるバラをたくさんつくって下さい。

○ 根拠をもとに〇〇さんの工夫や願いに気付くことができるようにするために、ラベル図をもとにラベル、タイトル、視点をつなげて学習問題の答えを説明させる。

○ 「つくり方」について、学習問題の答えを説明させる。

○ 自分の考えを文章で書けるようにするために、ラベル図を活用させる。

○ 「自然」「つくり方」「とどけ方」の視点を意識して説明することができるようにするために、説明の仕方を提示する。

元岡ののう家の人たちが、バラをたくさんつくることができるわけは、〇つあります。  
一つ目は、～。二つ目は、～。  
このように、～。

○ これまでの学習を振り返り、学習問題の答えやこの学習で学んだことをわかりやすく書きまとめさせるために、〇〇さんへの手紙に自分の考えを書くという形をとる。

4 本時A 提示物（ラベル図）をつかった説明の活動②（11 / 14）

5 本時の目標

- 学習問題の答えの視点である『とどけ方』について、自分のラベル図と友達のラベル図を比べて話し合い、バラを新鮮に届けることについて、考えることができる。

6 本時指導の考え方

- 児童は、前時までに学習問題「元岡のバラ農家は、どうしてバラをたくさんつくっているのだろう。」について、自分なりのラベル図にまとめてきた。その後、「自然」「つくり方」の視点について、事実を見直してきている。

そこで、本時では『とどけ方』の視点について全体で話し合うことによって、さらに事実を確かなものにしていく。

まず、代表児と自分のラベル図を見比べることができるように、黒板に拡大した代表児のラベル図を掲示しておく。次に、代表児にラベル図をつかって、自分の調べた『とどけ方』の事実を説明させる。その際、根拠となる写真や資料を指し示しながら説明させることによって、自分のラベル図の事実と似ているところに共感したり、違うところに疑問をもったりすることができる。代表児が説明した後、疑問をもった児童は、質問をしたり根拠をもとに意見を述べたりする。全体の交流を通して、みんなが納得した事実をラベル図に表すことができる。これが共通のラベル図となる。

そこで、本時指導にあたっては、特に、次のような手だてをとる。

(1) 提示物

学習問題

元岡のう家の人たちは、どうしてバラをたくさんつくれるのだろうか。

代表児(A案)

- 早朝にしゅうかく
- ストックポイント
- れいぞうこ
- 福岡の花市場
- バケット
- 直売店

代表児(B案)

- 水につける
- ストックポイント
- れいぞうこ
- 花市場
- 入れ物
- 直売店

みんなのラベル図

新せん

- 早朝にしゅうかく
- 水につける
- バケット
- ストックポイント
- れいぞうこ
- 福岡の花市場
- かん西の花市場
- 直売店

(2) 交流の工夫

- 事実認識を深める交流のさせ方の工夫  
児童の事実認識を深めるために、次のような手順を踏んで話し合いをさせる。
  - ① 代表児に、ラベル図をつかって、根拠となる写真や資料を指し示しながら事実を説明させる。
  - ② 自分の考えと友達（代表児）との考えを比べて、質問したり意見を述べたりして話し合いをさせる。その際、ラベル図の違う児童を代表児とする。
- 提示物を活用した板書  
代表児が考えた「とどけ方」のラベルは板書に掲示しておく。考えが一目で分かるようにしておくことで、自分のラベル図と友達（代表児）のラベル図とを比べて話し合いやすくさせる。

7 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援
<p>1 本時学習のめあてを持つ。</p> <p>学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〇〇のバラ農家の人たちは、どうしてバラをたくさんつくることができるのだろう。</p> </div> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「とどけ方」の事実について、自分と友達のラベル図をくらしながら話し合い、「とどけ方」のラベルをたしかめよう。</p> </div> <p>2 「とどけ方」のラベルについて話し合う。</p> <p>(1) 代表児2人が、ラベル図をつかって『とどけ方』の工夫について説明する。</p> <p>(2) 事実やその根拠が似ているところや違うところを比べて質問したり、付け加えたりする。</p> <p>(3) 市場への届け方について話し合う。</p> <p>① 農家→福岡の花市場→関西の花市場→店→人</p> <p>② 農家→福岡の花市場→店→人 農家→関西の花市場→店→人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関西の花市場には、福岡の花市場に届けた後バラをとどけるのかな？</li> </ul> <p>3 「とどけ方」の事実の中で、新鮮に届ける工夫についてラベルを付加・修正する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>新せん</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>・早朝にしゅうかく ・水につける ・れいぞうこ ・バケツ ・ストックポイント ・福岡の花市場 ・かん西の花市場</p> </div> <p>4 今日の学習を振り返って、「今日の学習で」を書く。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・ストックポイントも新せんなバラをとどけるくふうになることが分かった。</p> <p>・関西の市場にちよくせつしゅつかされていることを知って、びっくりした。</p> <p>・ラベル図ができて、学習問題の答えが見つけられそうだ。</p> <p>・友だちのせつ明を聞いて、事実のこんきよがよく分かった。</p> </div>	<p>指導・支援</p> <p>○ 代表児2人が、自分の考えをみんなに分かりやすく伝えるために、ラベル図や資料をもとに事実を説明させる。</p> <p>○ 事実認識をより確かなものにするために、一つ一つのラベルの根拠について考えさせる。</p> <p>○ バラを新鮮な状態で届けている〇〇さんの工夫に気付かせるために、市場への届け方を考えさせる。</p> <p>○ 事実を確かめるために、〇〇さんからの手紙を紹介する。</p> <p>○ 学習問題の答えを考える手がかりにするために、「新せん」というタイトルをつけさせる。</p> <p>○ 時間の流れが分かるように、ラベルを並び替えさせる。</p> <p>○ 全体で話し合いをしたことで、新しく分かったことや見直したことを中心に書くように助言する。</p>

4 本時B 提示物（ラベル図）をつかった説明の活動③（13 / 14）

5 本時の目標

- 福岡市のバラのう家の人たちが、自然を生かし、つくり方やとどけ方の工夫や努力をして、バラをたくさん生産していることについて考えることができる。

6 本時指導の考え方

- 児童は、前時までに学習問題「元岡の農家の人たちは、どうしてバラをたくさんつくっているのだろう」について、見学や資料から読み取った事実を、少人数または全体で話し合い、さらに農家の人たちの気持ちを付加したラベル図を完成させた。

本時は、ラベル図をもとにみんなで学習問題の答えを考えていく場面である。学習問題の「たくさんつくっている」という言葉につなげる視点として「つくり方」のラベルに注目させ、教師が「つくり方の視点だけで学習問題の答えができるのではないか。」と問いかける。そこで児童達は、「自然」と「とどけ方」の視点が、本当に学習問題の答えにつながっているのかどうか、もう一度ラベル図を見直し、学習問題につないで考え、一人一人がラベルの事実の根拠を振り返り、自分の考えを発表していく。最後に、自分の考えた学習問題の答えを数人に説明させる。その際、板書にある拡大した提示物を使って、考えの根拠となるラベルを指し示しながら説明させる。そのことで、児童一人一人が自分の考えとの違いを事実をもとに比較することができると思う。

このような交流活動を通して、事実（ラベル）とタイトル、視点をつないで説明することで、学習問題の答えを考え、自分の考えをまとめることができると思う。

そこで、本時指導にあたっては、特に、次のような手だてをとる。

(1) 提示物

学習問題 **元岡のう家の人たちは、どうしてバラをたくさんつくることができるのだろう。**

自然	つくり方			とどけ方
平地	温度	日当たり	水とえいよう	新せん
広い	ビニルハウス	とう明のビニルハウス	かん水チューブ	早朝にしゅうかく
日当たり	れいぼう	ぎん色のマルチシート	えき体ひりよう	水につける
海の近く	だんぼう	守りかた	水とひりよう	れいぞうこ
しもがおりない	じゅんかんき	ビニルハウス	1日5回自動で	バケツ
あたたかい		1本1本しようどく	マルチシート	ストックポイント
		小花をとる	ロックウール	福岡の花市場
		ロックウール		かん西の花市場
				直売店

一人一人に喜んでもらいたい

(2) 交流の工夫

- 事実認識を深める交流のさせ方の工夫
  - 児童の事実認識を深めさせるために、次のような手順をふんで交流させる。
    1. 「自然」「とどけ方」と学習問題とのつながりを考えさせる。
    2. 自分の答えと友達の答えを比較し、自分の考えを説明するようにさせる。
- 提示物を活用した板書
  - 全体交流で作った視点ごとに色分けしたラベル図を掲示し、それを使って学習問題の答えを発表させる。そのときに、考えの根拠となるラベルを黒板に貼ることで、それぞれの児童が自分の説明と比較しやすくさせる。



7 本時の展開

学習活動と内容	指導・支援
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>学習問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p><small>もとおか</small> 元岡のう家の人たちは、どうしてバラをたくさんつくることができるのだろう。</p> </div> <p>めあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習問題の答えにつながるラベルやタイトルをつかって、自分の考えた学習問題の答えを友だちにわかりやすく説明しよう。</p> </div> <p>2 ラベル図をもとに、学習問題の答えについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温度や水と肥料・日当たり等「つくり方」を工夫しているから、たくさん作れるんだ。</li> <li>・ 「自然」や「とどけ方」のラベルは関係ないかな？</li> </ul> <p>3 話し合いをもとに考えた学習問題の答えを説明する。</p> <p>(1) 全員が一人で学習問題の答えを説明する。</p> <p>(2) 代表児が、学習問題の答えを説明する。</p>	<p>○ 学習問題の答えを見つけさせるために、視点と重なっている言葉はないかラベル図を見直させる。</p> <p>○ 「自然」と「とどけ方」の視点のラベルが、学習問題の答えにどうつながっているのか考えさせるために、「つくり方の視点だけで学習問題の答えができるのではないか。」と問いかける。</p> <p>○ 自分の考えを整理しやすくさせるために、ラベルの事実となる根拠を振り返ればよいことを助言する。</p>
<p>わたしは、〇〇さんのバラ農家に見学に行ったり、調べたりして、福岡市のバラ農家の人たちがたくさんバラを作っている理由が三つ分かりました。</p> <p>一つ目は、<span style="border: 1px solid black;">自然</span>を生かしてバラづくりをしていることです。元岡には、バラ作りをする<span style="border: 1px solid black;">ビニルハウス</span>がたてやすい<span style="border: 1px solid black;">広い</span> <span style="border: 1px solid black;">平地</span>があります。</p> <p>二つ目は、<span style="border: 1px solid black;">つくり方</span>の工夫です。<span style="border: 1px solid black;">温度</span>、<span style="border: 1px solid black;">日当たり</span>、<span style="border: 1px solid black;">水とえいよう</span>、<span style="border: 1px solid black;">守り方</span>を工夫して育てています。</p> <p>三つ目は、<span style="border: 1px solid black;">とどけ方</span>の工夫です。バラを買う人一人一人による<span style="border: 1px solid black;">こんでもらえるよう</span>に、<span style="border: 1px solid black;">新せん</span>さんに気をつけて、トラックで<span style="border: 1px solid black;">かん西の市場</span>にまで届けています。</p> <p>このように、福岡市のバラの農家の人たちは、「お客さんに喜んでもらいたい」という願いをもって<span style="border: 1px solid black;">自然</span>を生かし<span style="border: 1px solid black;">つくり方</span>や<span style="border: 1px solid black;">とどけ方</span>の工夫をして、たくさんバラを作っていることが分かりました。</p> <p>4 「今日の学習で」を書く。</p>	<p>○ 振り返りの視点を、「友達の説明を聞いてよかったこと」「自分の説明に取り入れたいこと」を中心に書くようにさせる。</p>